

無表情の 幼馴染の 淫行

本番禁止
何度も搾られた話

って
言ってたのに...

淫行
淫行
淫行



幼馴染

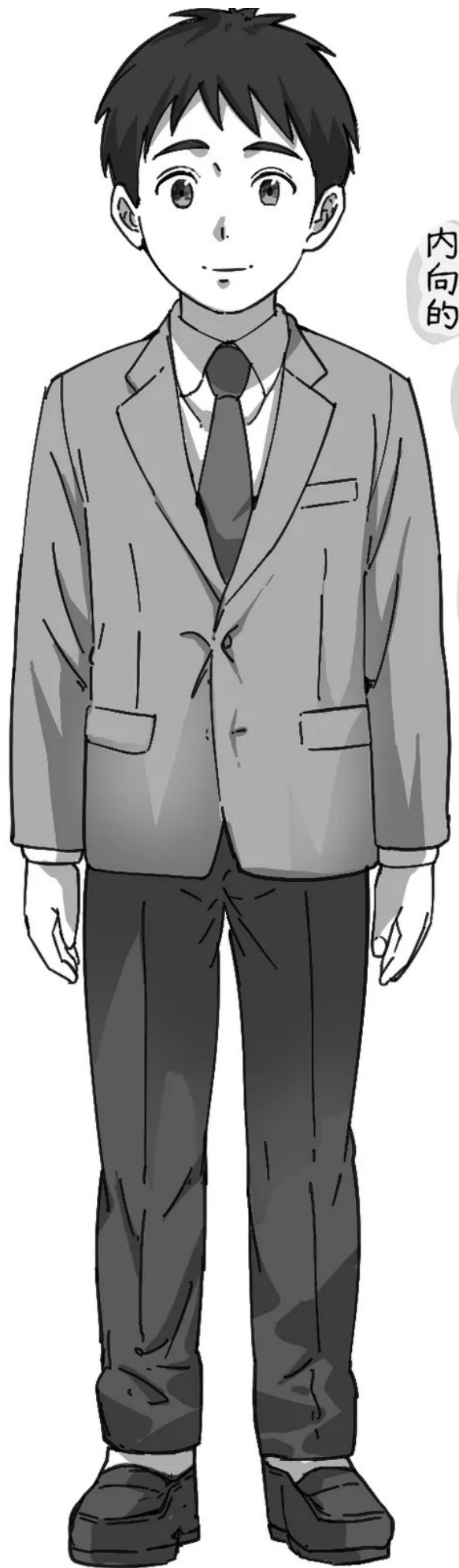


無表情

冷静

優秀で真面目

まな



内向的

気弱

地味系男子

駿



放課後の図書室
沈黙の中で二人の距離だけが近い



ねえ駿…

私たち…**予習**って、
しておくべきだと思おう？

へ？



まなって
前からずっと変わらない

感情を見せないくせに
妙に距離が近いんだよな…



え、予習って…

それ、今度の中間の話じゃないよな？

えっちの予習…

は！？

実際に始まってから…失敗するの恥ずかしいでしょ？

だから、ちゃんとの準備しておきたいの

名前：まな
年齢：高〇2年生
身長：158cm
体型：やや細身ながら出るところは出ている
胸囲：B86 (Dカップ)

まなのお願いが沈んでいた
日常と股間を揺らした



常に無表情。声も小さく、感情の起伏が少ない
冷静、淡々、でも芯が強い。ややマイペース
成績：学年上位。真面目で几帳面
趣味：読書、特に実用書や心理学系
人間関係：幼馴染の駿以外と深く関わらない
その他：恋愛経験ゼロ。
性的なことには興味があるが、実践に不安がある

でも僕はAVでしかセックスを見たことがない…



AVでの知識は実戦で試すとダメってしみ〇んも言ってたし…



ドキッ

変に気を使わなくていいから

練習台になつてくれない？

駿なら…
信頼できるし…



うん、本番は禁止だよ

あくまで…
練習だけってことで…
安心して



そ、それってさ…冗談とか

イヤ、ズラかな…

そういうノリじゃないんだよな？



まなのその言葉は
どこまでも淡々としていた

現実離れしているのに
嘘には聞こえなかった



だって、初めてって
絶対緊張するし

うまくできるか
わからないでしょ？

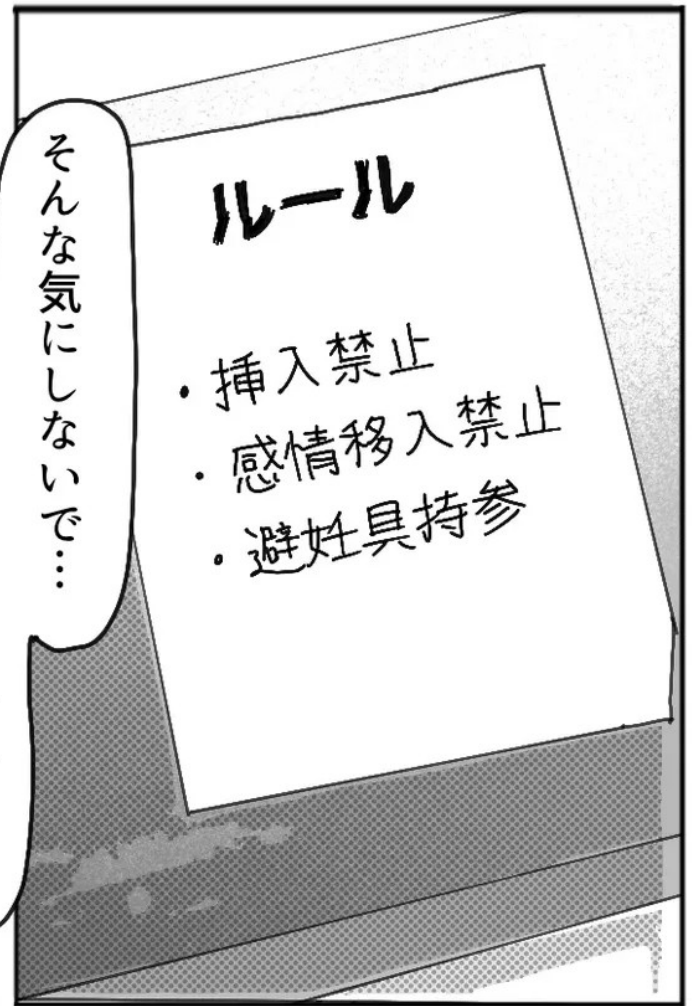
好きな人とする時に
失敗するくらいなら
駿で予習しときたいの

あ…



なんで…
急にそんなこと
言い出すんだよ

前触れもなしに…





無表情で感情を見せない

だけど俺はその静けさに
救われてたのかもしれない



勉強で落ちこぼれてた
あの時…俺を…俺を…

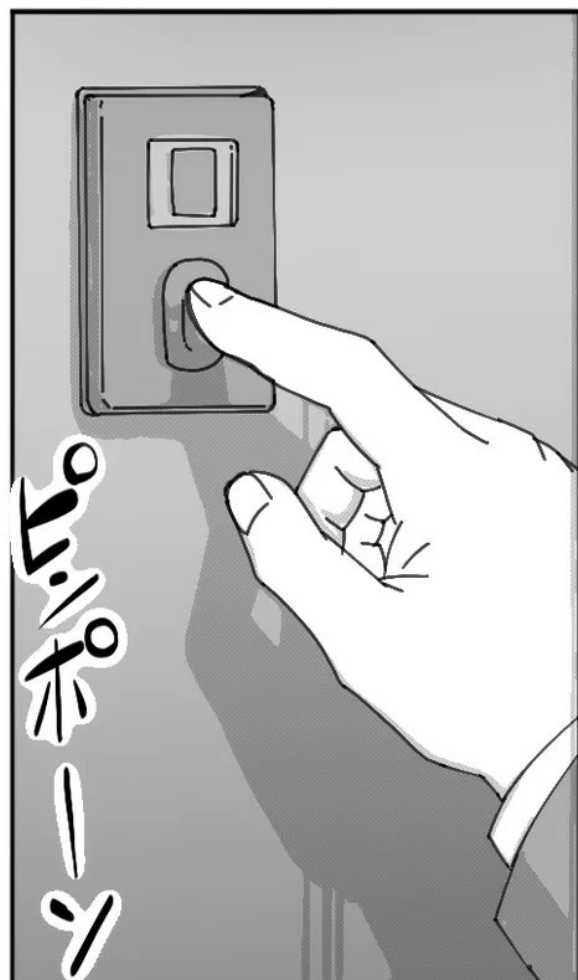


俺を気にかけてくれたのは
まなだけだった





来たんだ
じゃあ、
入って

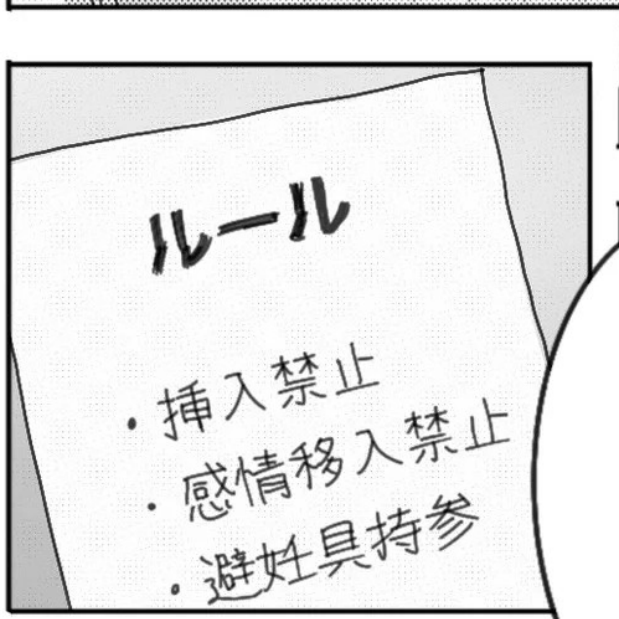


ぴんぽん



ここが私の部屋…

入って…

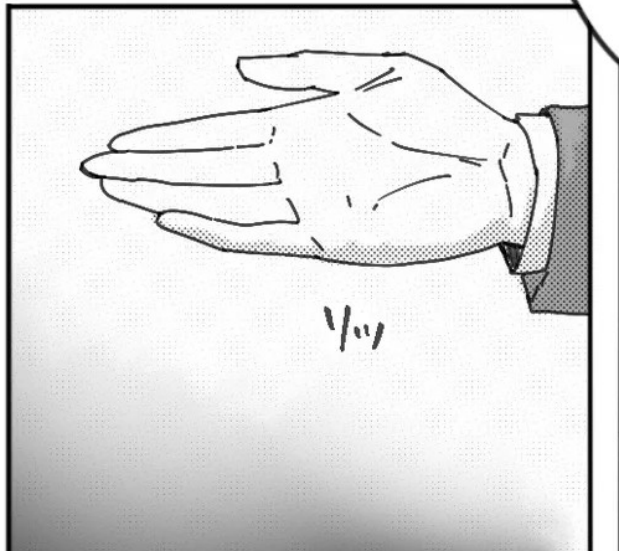


ルール

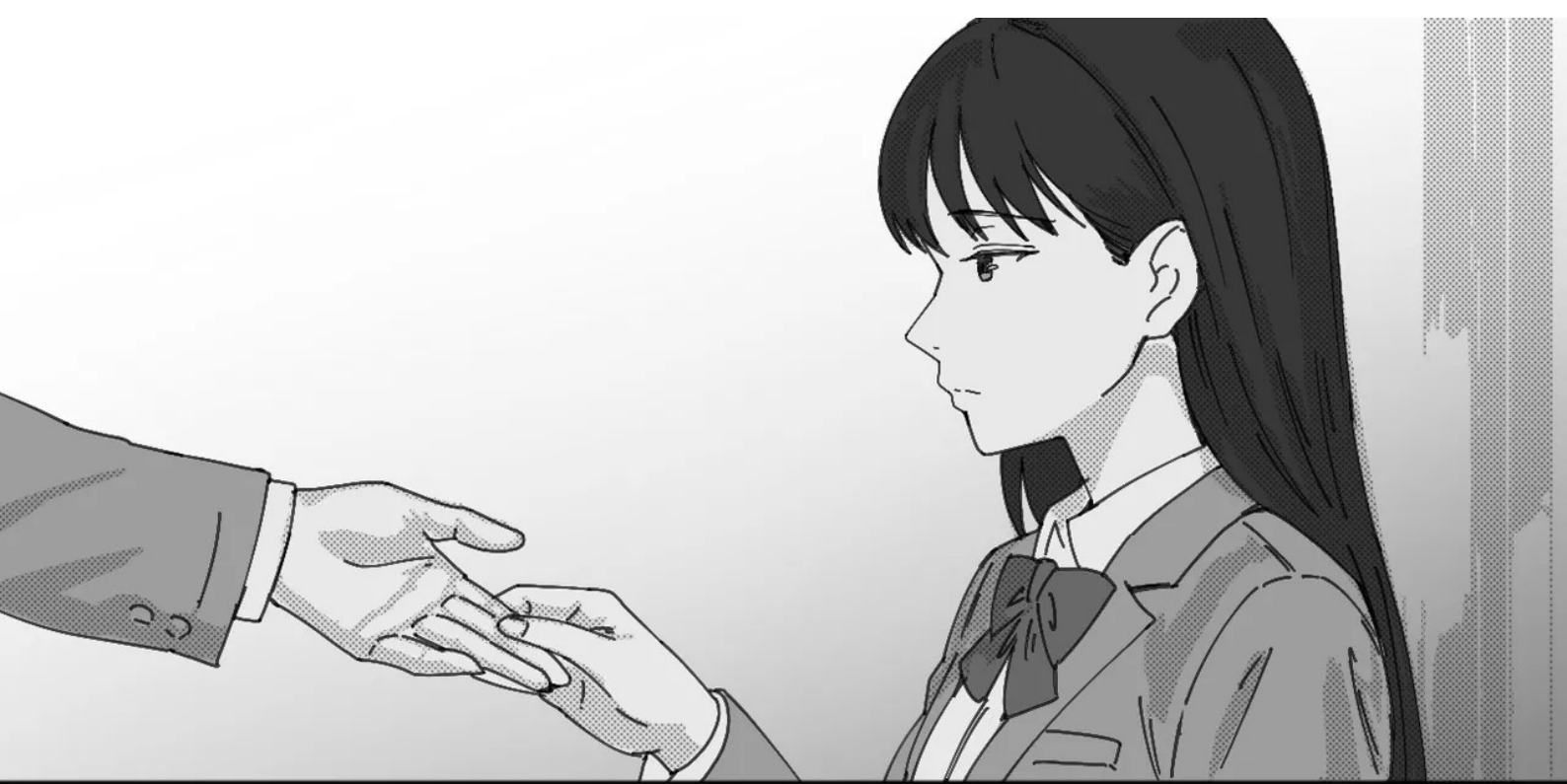
- ・挿入禁止
- ・感情移入禁止
- ・避妊具持参



今日のメニューは
まず手をつなぐ
練習から始めるよ

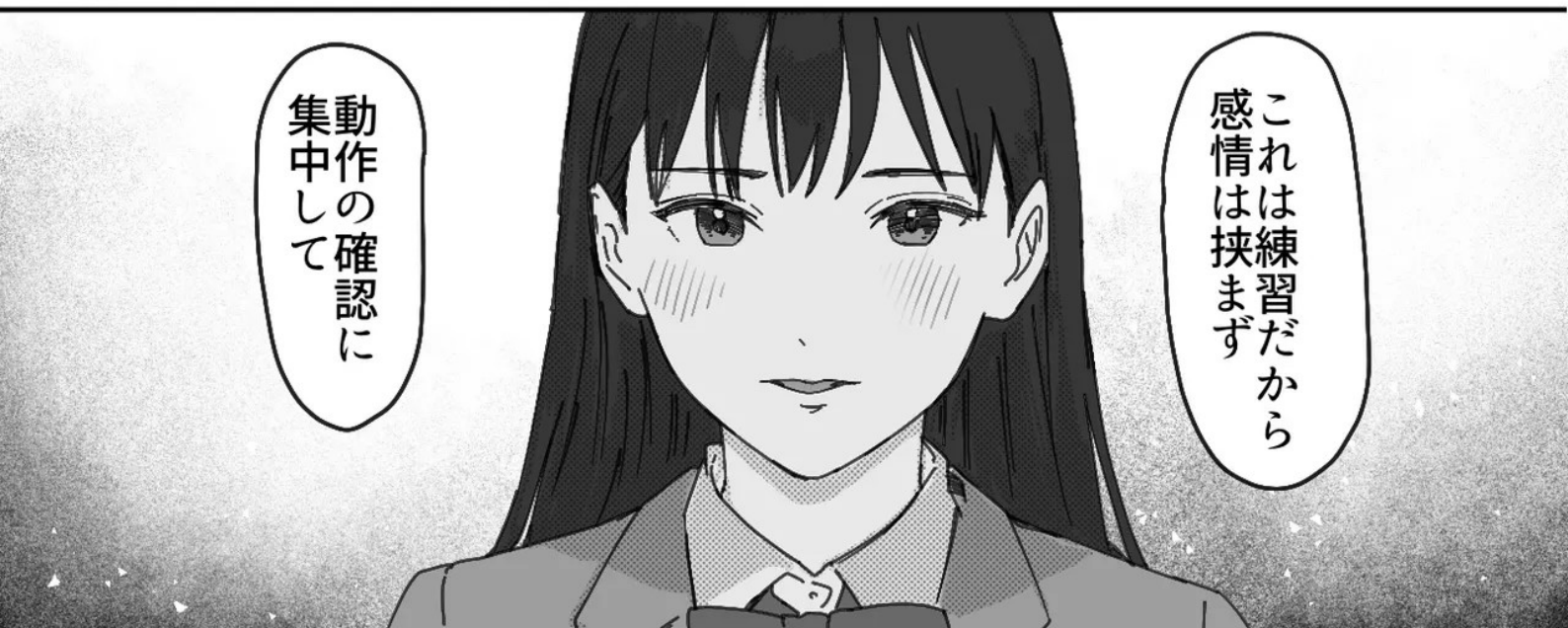
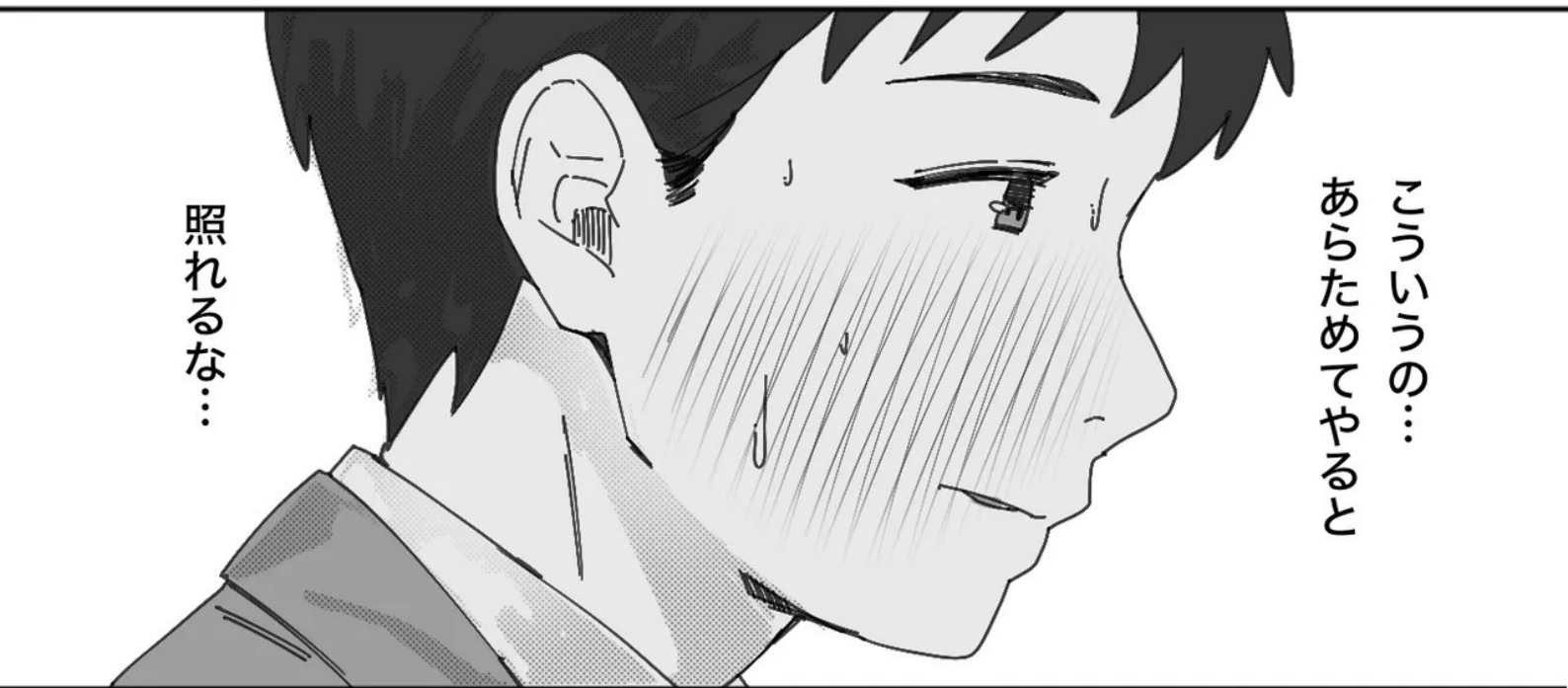


1/3



こじらんの…
あらためてやるよ

照れるな…



これは練習だから
感情は挟まず

動作の確認に
集中して



ある日の教室で…

初エツチ
全然うまく
いなくてさ…

気持ちよくなかったし



準備してなかったから
失敗した——

そんな話
何度も聞いた

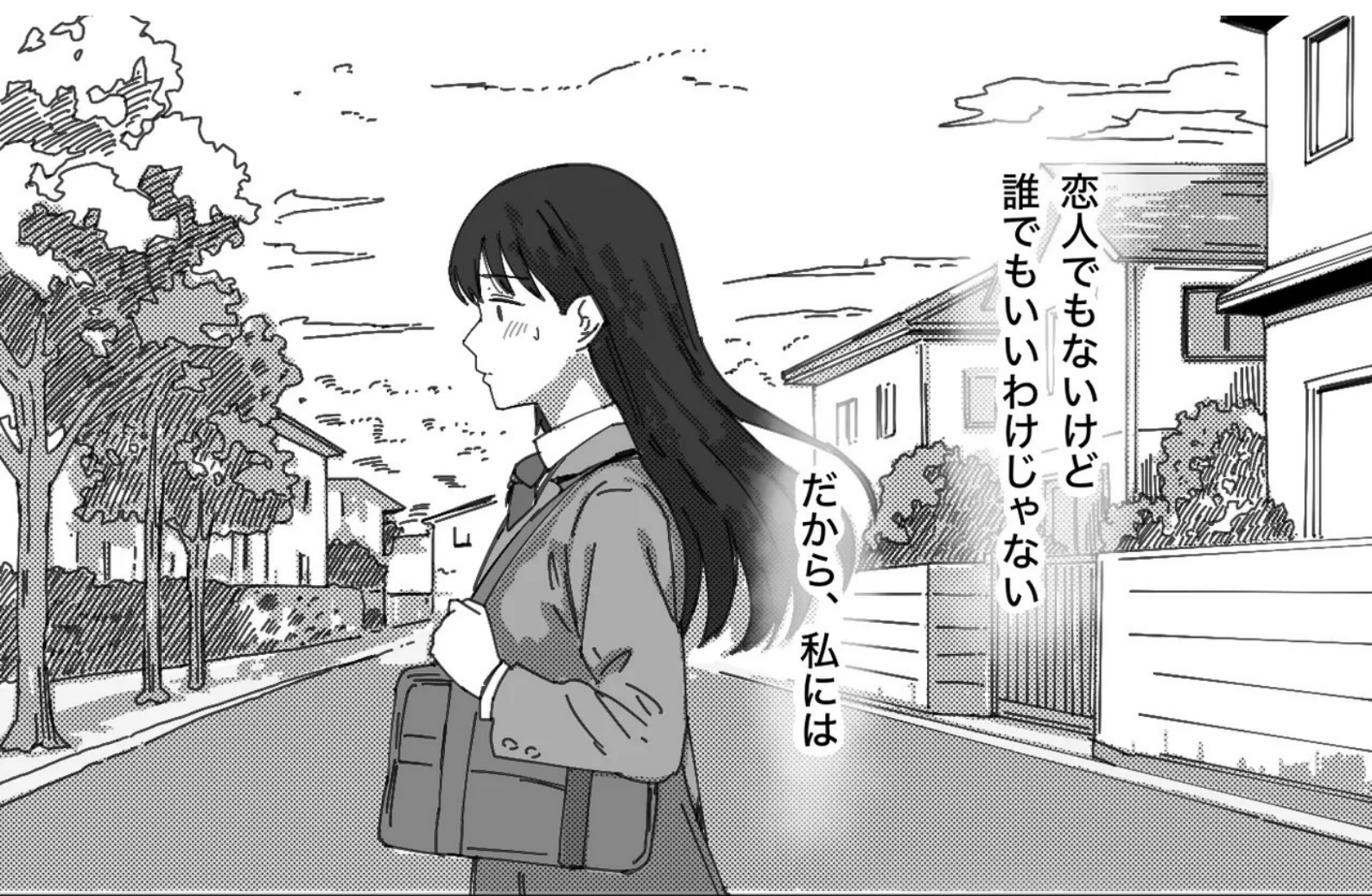


私はそういう
後悔はしたくない



練習とかしないじゃん？
こういうのってさあ？

こんなあつさり処女
じゃなくなるなんて思わなかったわ？

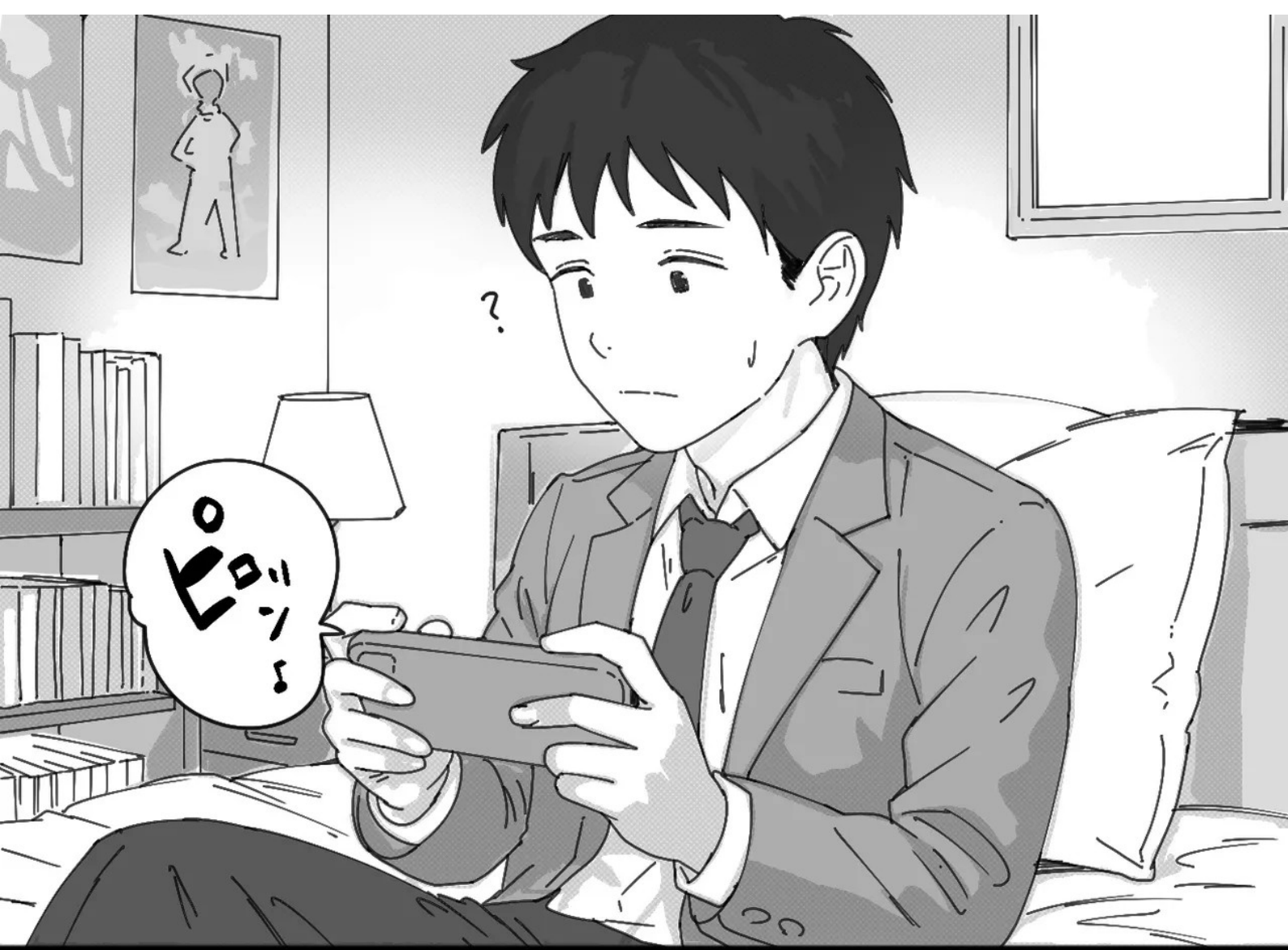


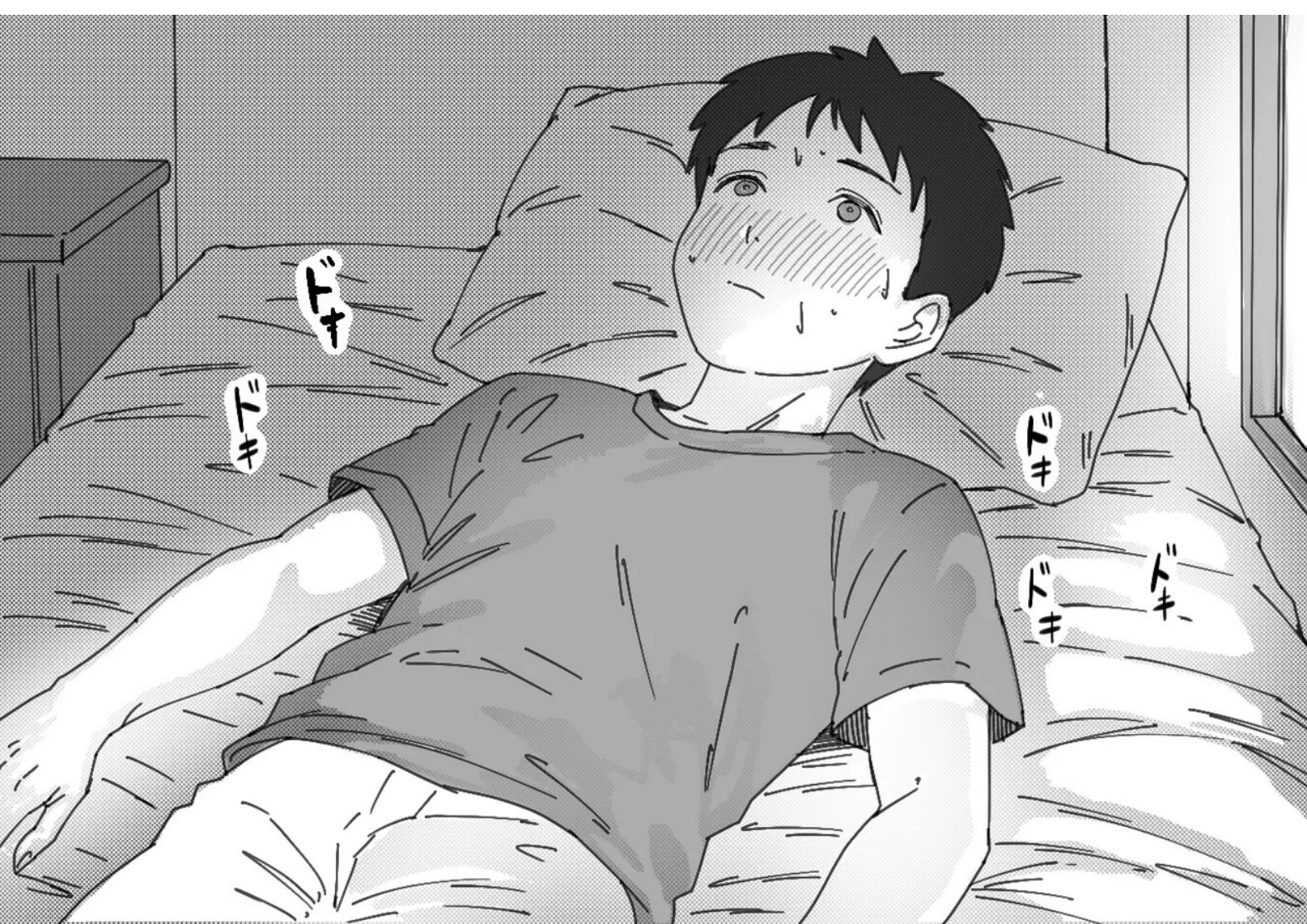
恋人でもないけど
誰でもいいわけじゃない

だから、私には



予習が必要なんだと思う





幼馴染と「そんなこと」とか
ありえないって…

普通に考えたら
断るべきだよな…?





でも…相手が
まななら…

昔からずっと一緒にいたし…
ちよっとだけなら…

スツキ☆



今、ひとつの
境界線を越えた—



理性を超えたのは、好奇心か
それとも、抑えきれない欲望か





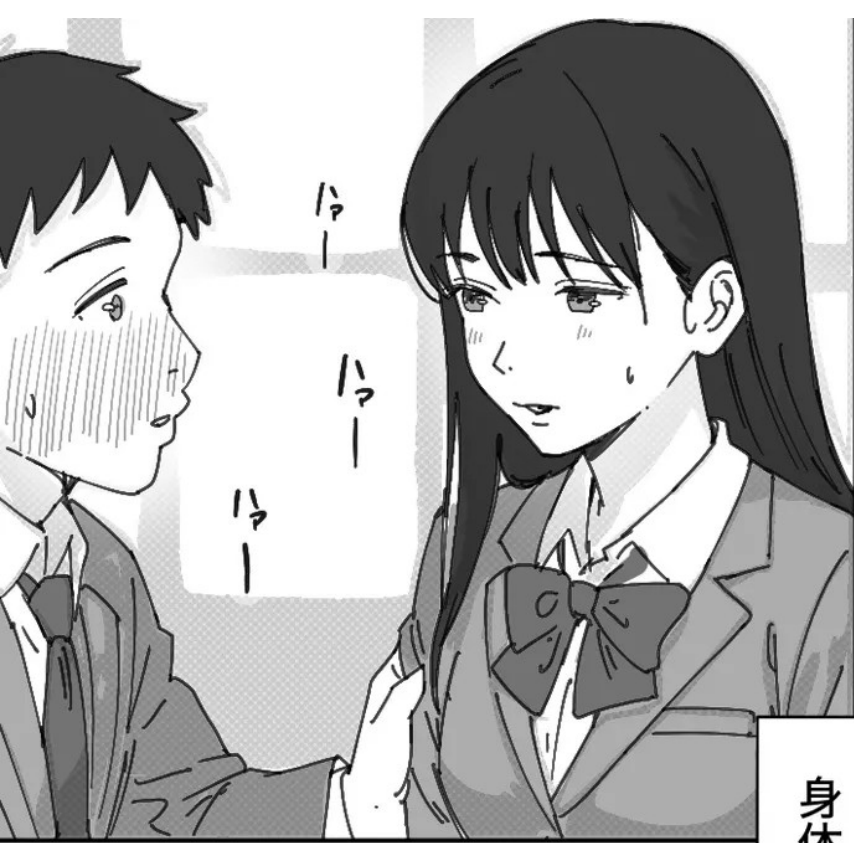
じゃあ、
今日は「ハグ」まで

まずはスキンシップの
導入練習から始めるね

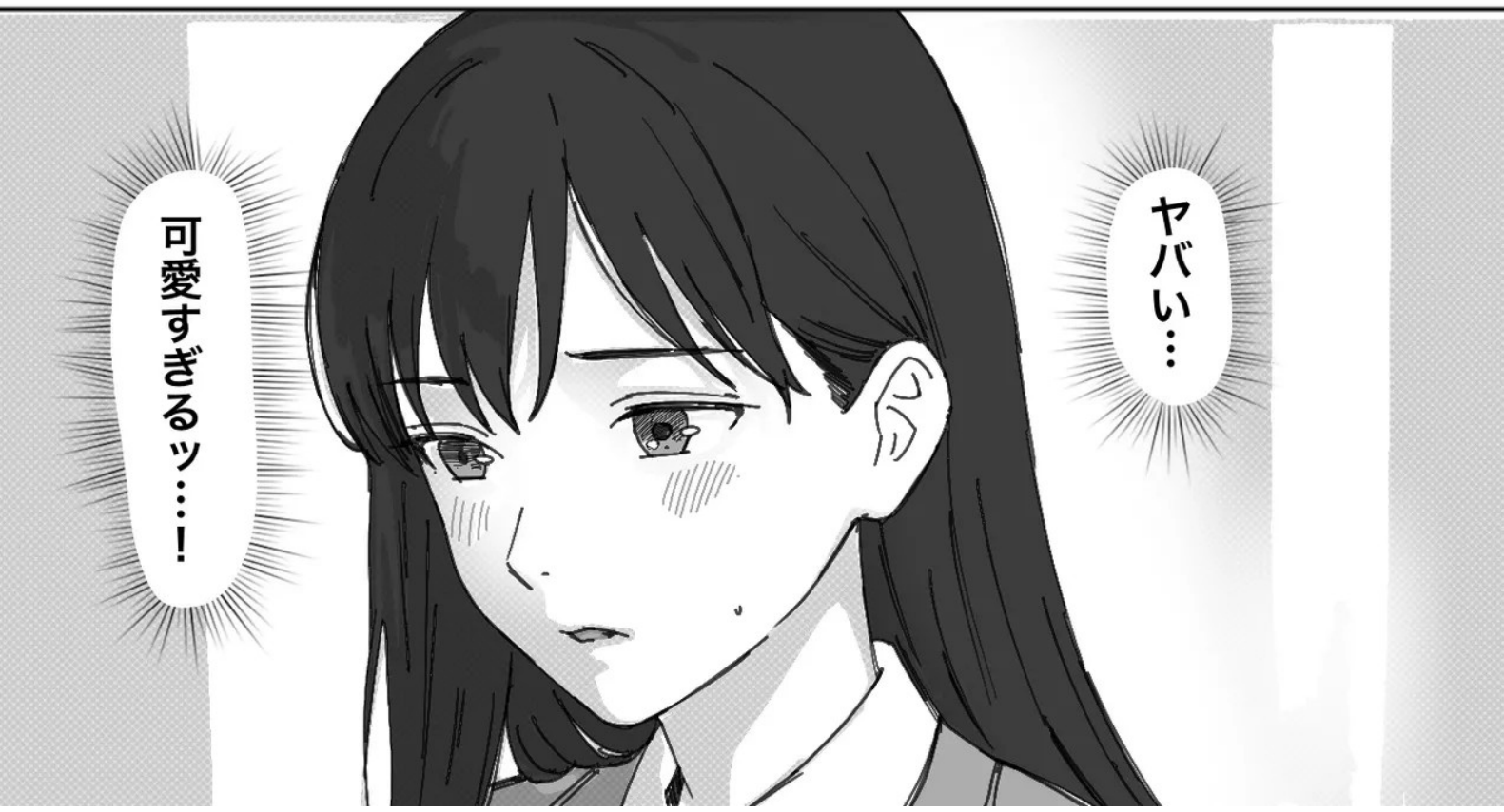


ぎこちないけど、確かに
今、まなと触れている――





その小さな吐息が、
身体の奥を熱くする







最近、まなとよく一緒にいるよな？なんかあった？

いや、別に…

ちよつと話す機会が増えただけ



ヒヤリ

まなとのこと、まさか練習してるなんて言えるわけない…

どこまでが普通で、どこからが逸脱なんだろう…



俺、今すごく
変なことしてるよな…？

だけど…



むしろ、もっと—



やめたいとは思わない…!!



えっ、それって…



もう本番の
一歩手前じゃ…



挿入しなきゃセーフ
問題ないって冷静に考えて



今日は素股をする
下着越しだから

ちゃんとルール内でね…

ちやんと擦って

リアルな動きの
練習大事だから

こんな…ヤバい
気持ち良すぎる…!!

はあ

はあ

はあ

これでいいのかな…

ドキ

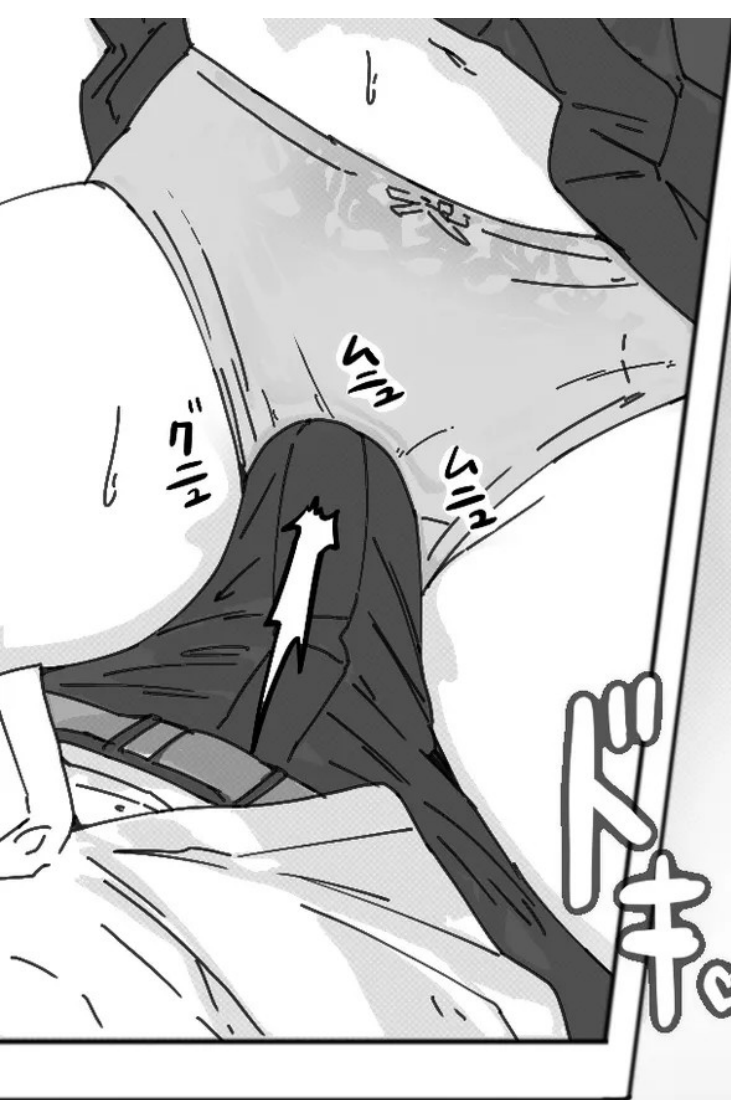
ドキ

ドキ

ゾクゾク

ムム
んぎゅ





無表情なのに...
感じてるってわかる...!



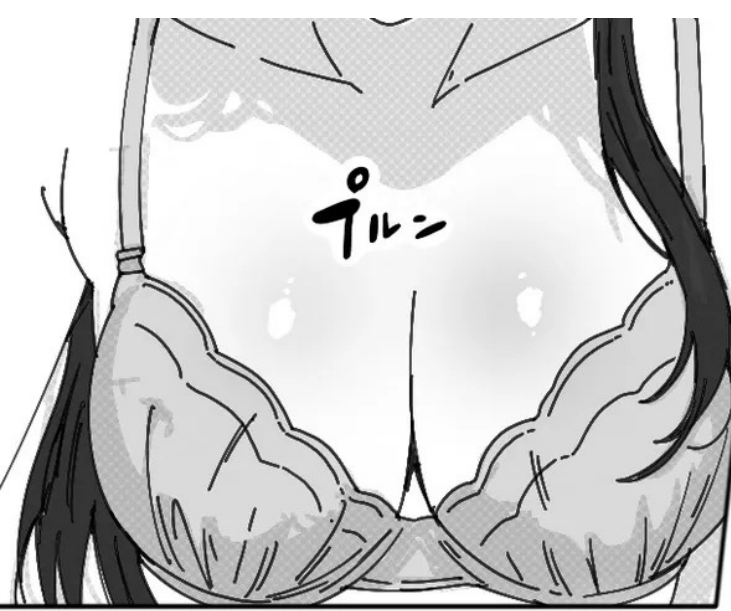
ここもちゃんと
練習しなきゃね

脱ぐの...!?

ドクッ...

グニャ〜♡

グニャ





ちやんと
感触覚えておいて

ムムム

ムムム

ムムム



胸ってけっこう
繊細だから

ドキ

ドキ

ドキ

ムムム

ムムム

ウオオオ

!!!



これ…本当に
ごっこ…なのか…？

駿の…
固くなってるね

予習
調整ってことかな

ドキッ

ドキッ

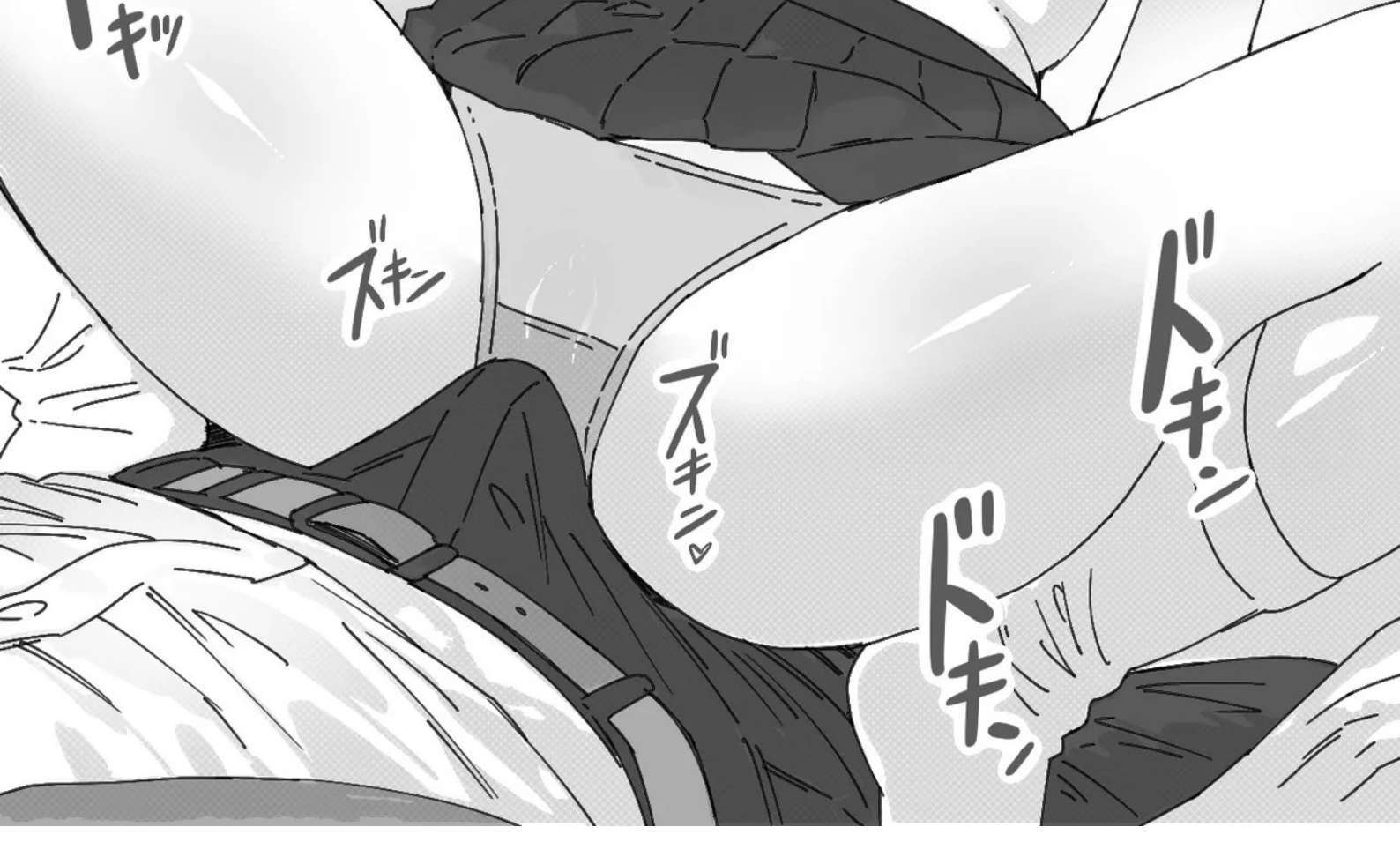
ドキッ

ズキン

ズキン

ドキッ

ドキッ

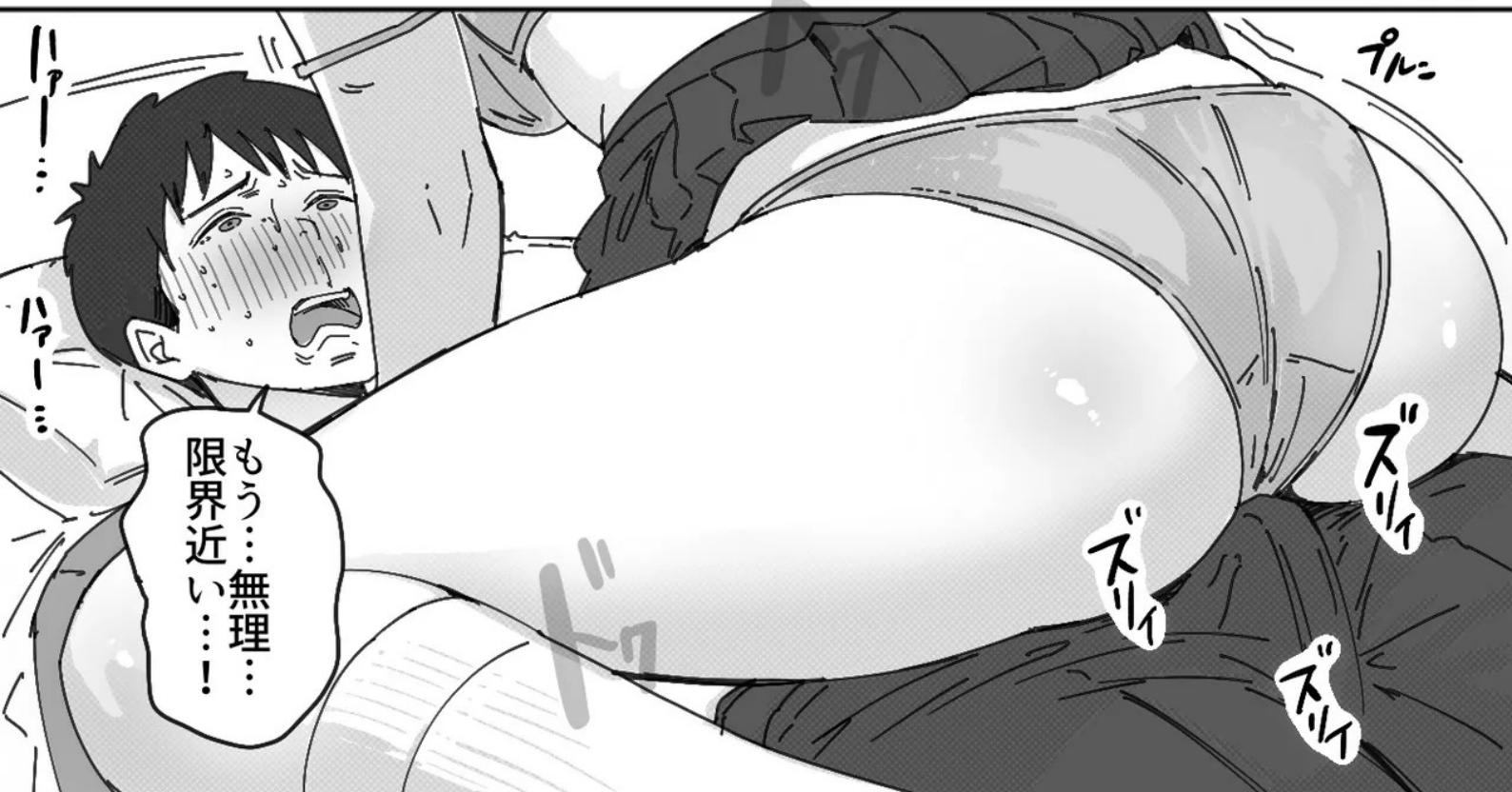




動かさずともつと工夫して

擦れる面を
広く当てて

ハア...
ハア...
ズン
ズンズン



もう...無理...
限界近い...!!

ハア...
ハア...
ズン
ズンズン



いつちやダメだよ
まだ予習の途中なんだから

ハッ
ハッ
ハッ
ハッ



寸止めされた快樂が
脳を焦がすように広がった――

はぁ
はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

ホッ♡

ズキン

ドキン

ドキン



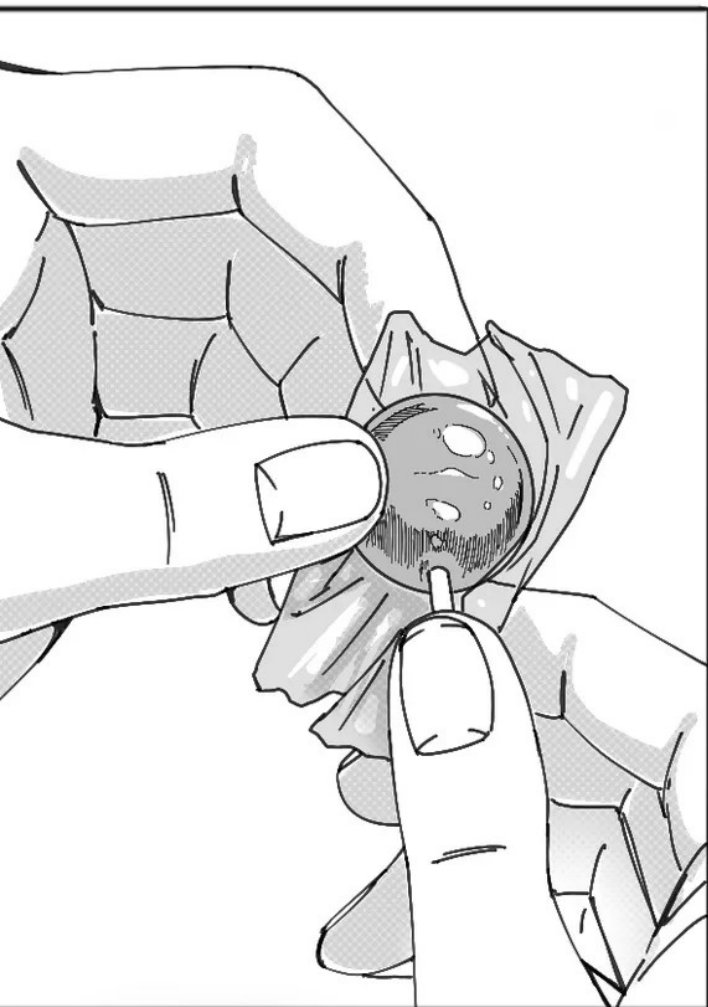
今日は「」まで「」しよう



次は…口でやるから
覚悟、しててね

はあ…はあ…









次は何を…
するんだらう…

本番かもね…

ドキ

ドキ

ドキ

淡々と、でもほんの
少しだけ笑ったように見えた

ドキ

ドキ

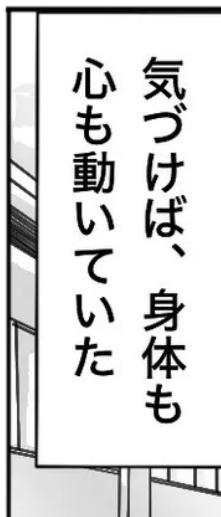
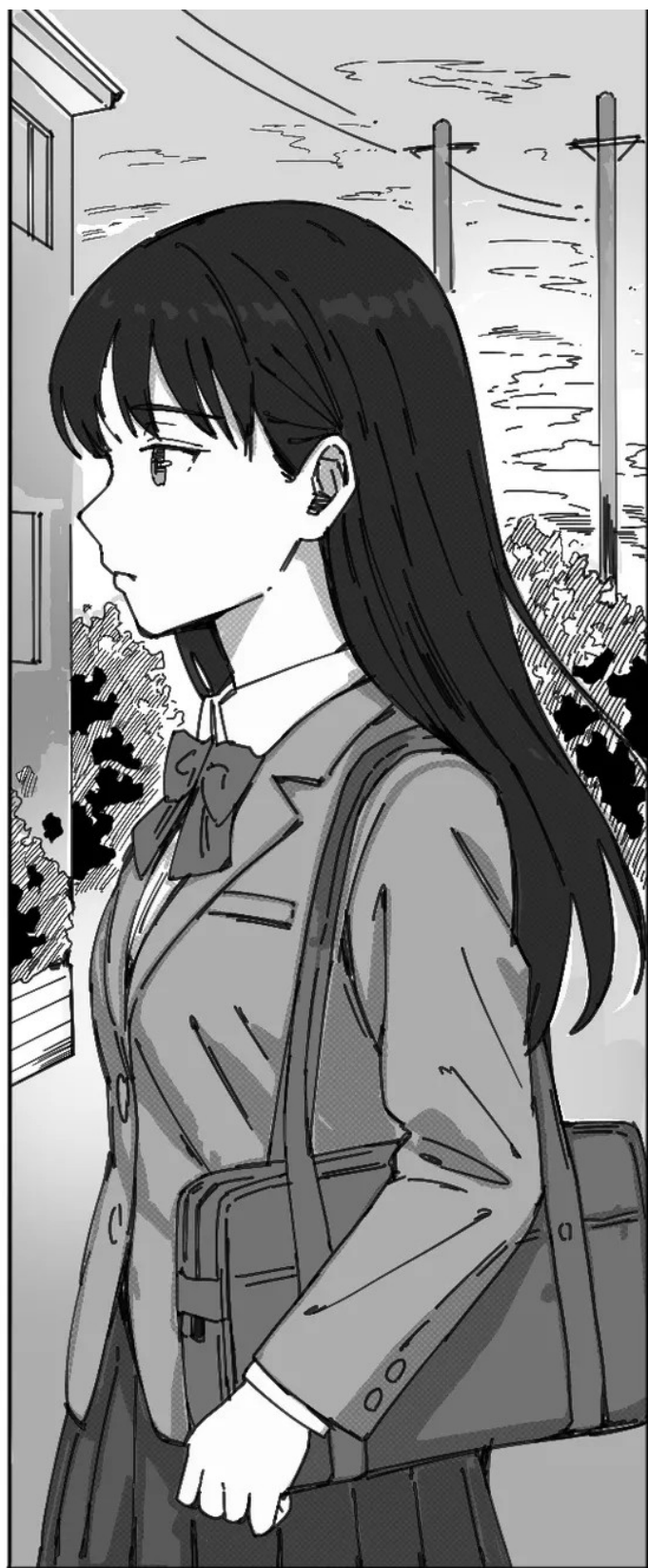
ドキ

ドキ

ドキ









もうやめよう……..
このままだと、俺、

まじでダメに
なる気がする



私は、駿がいい
他の誰でもなく

駿じゃなきゃ……
イヤ

やめたくない
これは、練習じゃ
なくなっても……

続けたいの……

関係の線引きは、
とうに曖昧だった

でも、その一言で
もう戻れないと悟った



暗闇の中で自分と
向き合うしかなかった

まなの顔ばかりが浮かぶ

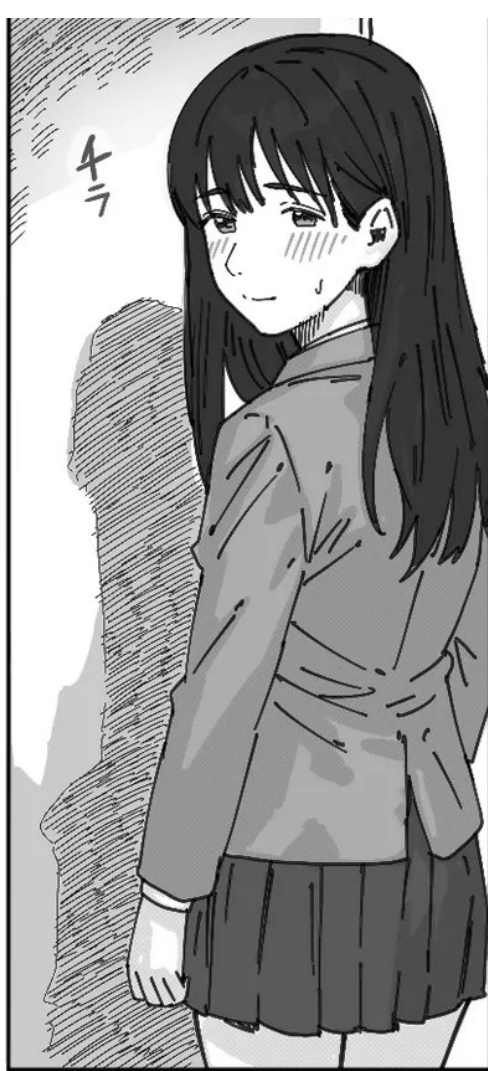


もう……
止まれないかもしれない

予習^{予習}って言うてるけど
あれは本当に
ただの練習だったのか？



あいつの気持ち……
わからない





卒業したいので
ちゃんと、駿で



駿の世界が
揺れた瞬間だった

今日は
本番するよ

あの無表情なまなが—
自分の意思で選んだ言葉

ドッキッ

まな……
ずっと一緒だった幼馴染

そんなまなが、
今、俺の前で裸になっている……？

笑うのも、泣くのも、無表情で——
でも、いつも俺の隣にいた

モッコリ

ドッ

ドッ

ドッ

ドッ

ドッ

ドッ



やばい…
本当に…



もう、我慢…
できないんでしょ…??



理性を越えた
予習が始まる——

見せて…

目の前の女の子が
俺の幼馴染なんだぞ…?
けど、体が熱くて、
断れる気がしない…





お願いだ、触れられる前に…
落ち着いてくれ…!!



俺…もう逃げられない…!!



でも、まなに拒否されたくない
止めたくない——





ひあつ...
や、やば...

そんな...っ!

ぺろ...

ぺろ...

じゅぶっ...
じゅぶる...



音を立てて啜え込み、唾液が絡む
冷たい目と、熱い口内が交錯する

んぐう...

ぐっ...じゅぼおっ



これが、「予習」なんて…



意外と、甘かった…



もう、ただの「遊び」では
済まされない—

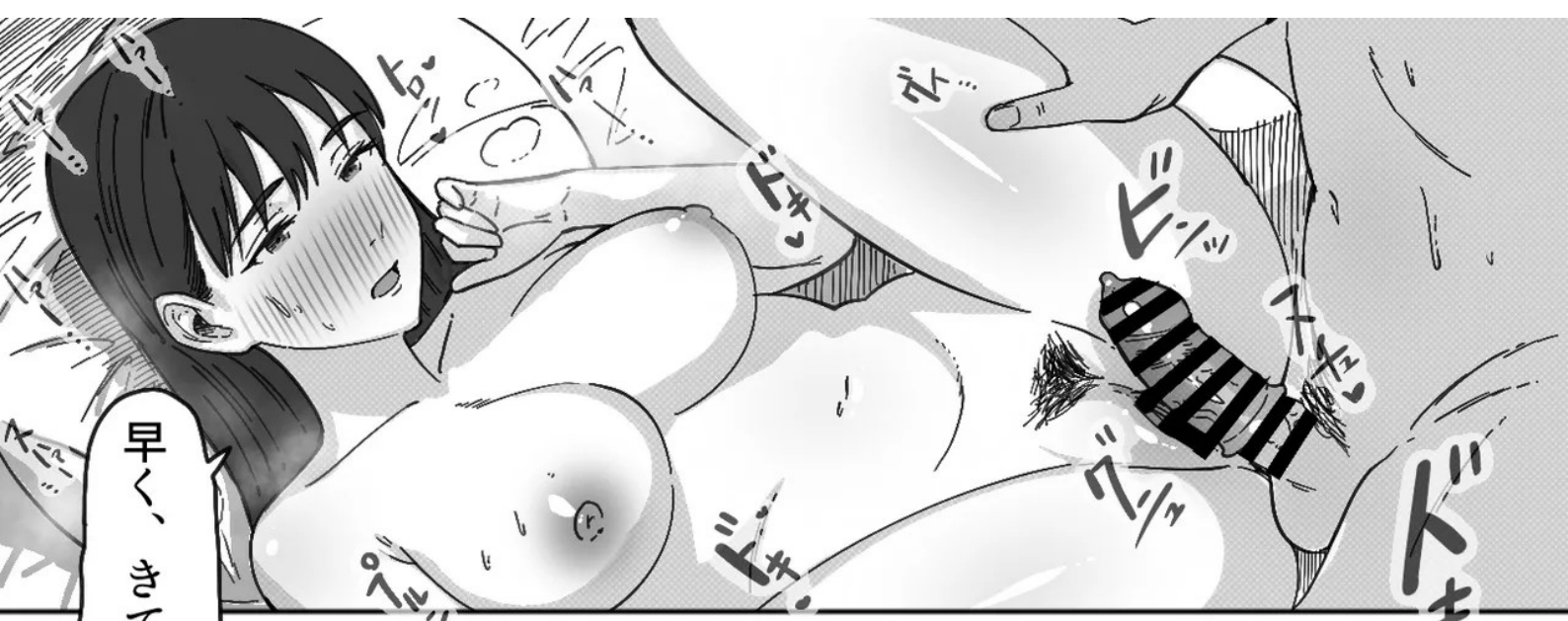


駿の吐息だけが
静寂を乱していた――

用意してたけど…
本当に使うとは…

グググ

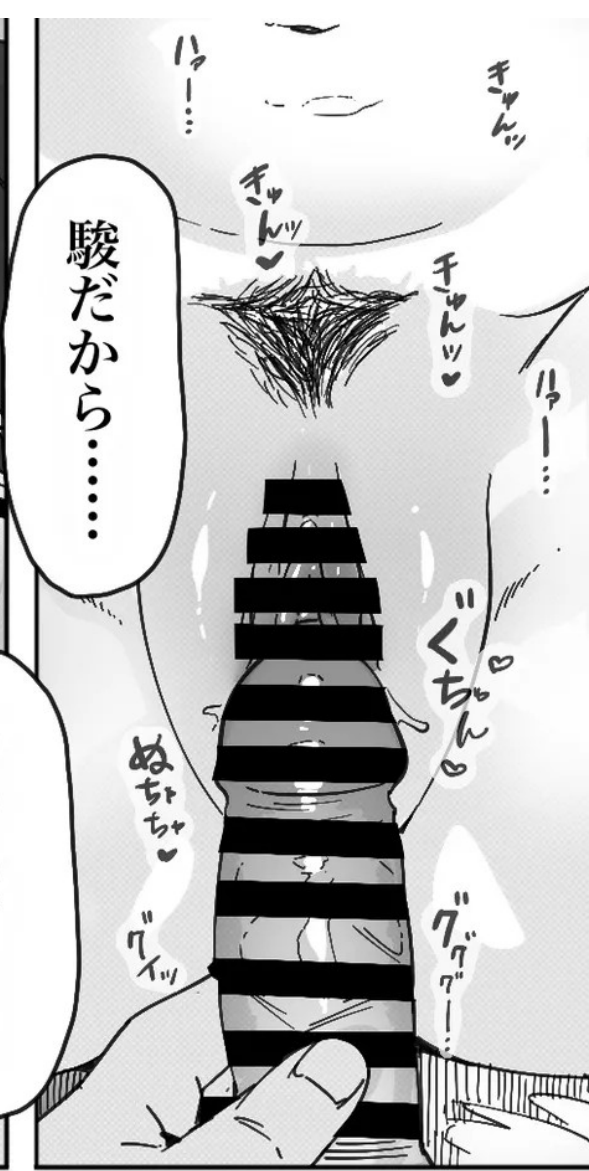




早く、きて……



優しくしてね



まなの漏らす本音で予習は
本物の愛へと変わった気がした





挿入った...

怖さも、戸惑いも全部呑み込んで
まなは彼を受け入れようとしていた





来て……
ゆつくり……
来て……

ぬちゅつ……

ず……

一線を越えた瞬間
感動と動揺でちんこが震えた

まなのまんこが
こんなに熱いなんて……

まな……



んっ……!

んっ……

動痛くない？
いてもいい……？

ぬっぬっ



静かな部屋に響くのは
二人の肌が重なり合う音……

んっ……そこ……
気持ち……いい……

ずちゅっ



つだいじようぶ……
つづけて

ぱちゅっ



こっちのが……
奥まで届く……？

ドキッ

ドキッ

ドキッ

ドキ

ドキ

ズッ……

フワッ

ポロ

まな……



無表情な彼女が
恥じらいでエッチな顔に……

こんな顔
はじめて……

ドキッ

ズッ

ビッ

フワッ

ズッ

ズッ

ズッ

ぬち

ぬち



どこに当たってるか……
わかる？

まなの膣が締め
駿の射精感を高めていく……



まなの笑顔は淫らで
どこか誇らしげだった

わかる
すごく気持ちいい



はあ……
よかった



きもちいいけどお互い
恥ずかしさでたまらなかった





痙攣する膣内に
駿のちんぽがピストンしまくる

快感が頂点を指して
突き上げていく

キッ♡

キッ♡



射精を越えたあとの静かな時間
ふたりの心音だけが重なって響いていた



繋がっていた余韻が
身体の奥にほんのり残っていた

駿……

言葉は邪魔だった
触れるだけで十分に
伝わるものがあつた

まっ まっ



や、やめてよ……
恥ずかしいだろ……



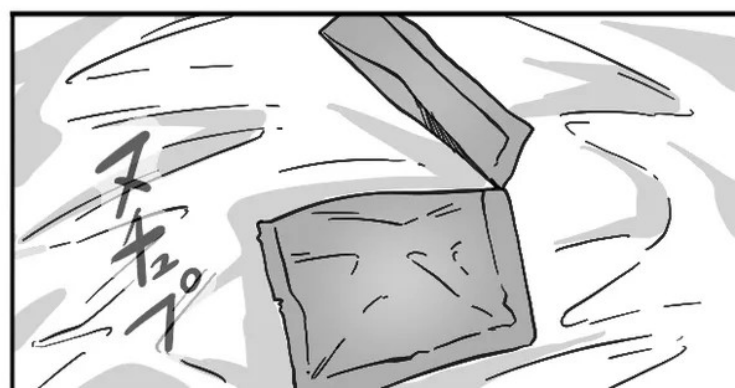
こんなに……
中でいっぱい
なってたんだ……♡

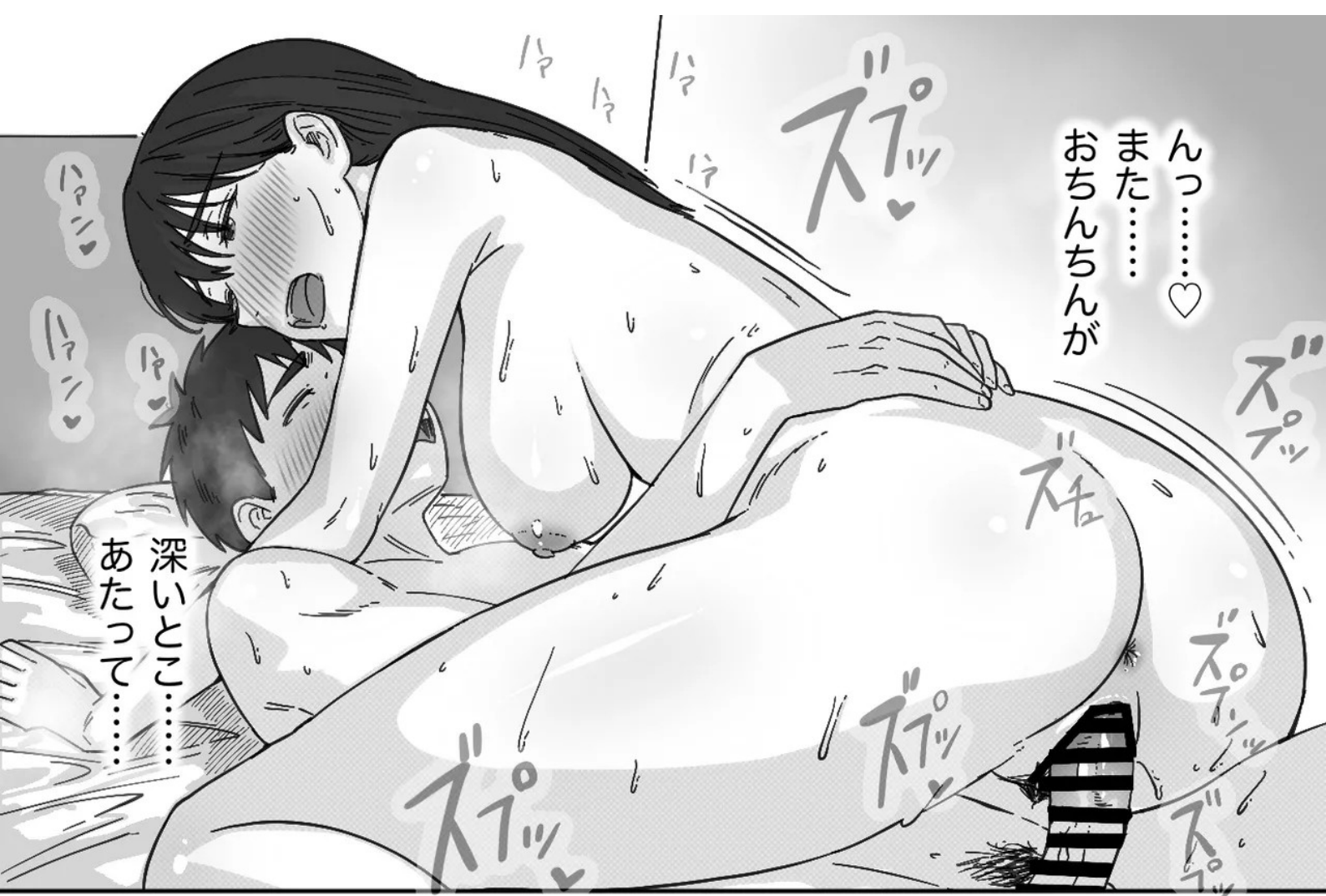


ねえ……
もう一回……

してもいい？

その声はとろけるようで
またちんこがおっきした





んっ……♡
また……
おちんちんが

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

深いところ……
あたって……



好き……
駿が……

いちばん好き……♡

ハッ♡



まな……
俺、なんかもう……

イってすぐだけど
ただただまなを感じていた

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡



ふたりの動きは
もう止まれなかった

本能に突き
動かされていく



いっ……っちやじ……
駿と一緒に……っ♡

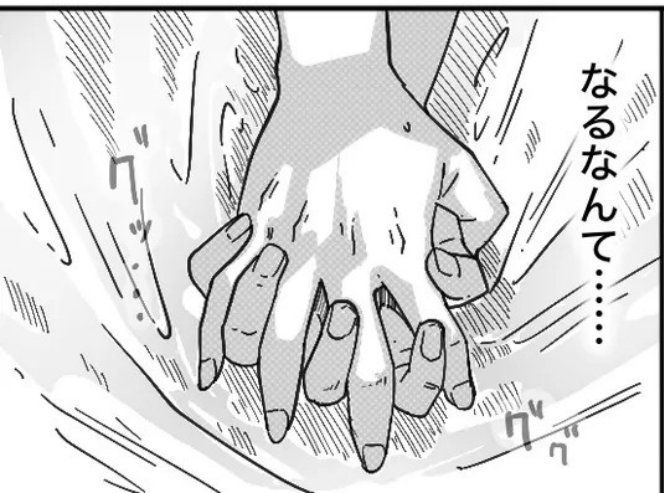


まな……っ
やばいよ……!



ああああっ……！
うっ……！

すべてが……
包まれたようだった



なるなんて……

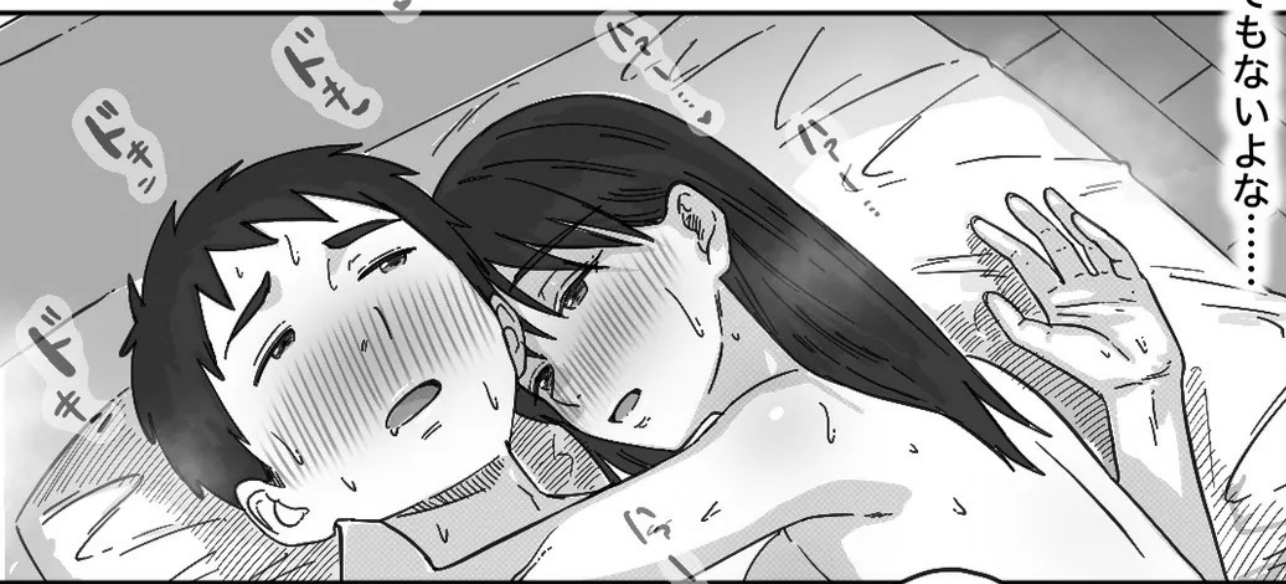


すごかった……
駿とこんなふうに……



これって……
もう「予習」でも

なんでもないよな……



その目に、迷いはなかった
あの時から――



駿……
ありがとう……♡

彼女の心はずっと
決まっていたんだ



夜が明けても
まだ離れたくなかった

肌の温もりが
心に染み込んでいく



それはきっと
予習の終わりであり



ふたりの恋の
本当の始まりだった



騒がしさも、匂いも、
風景も、全部がいつも通り



ねえ、今日
お昼どうする？

え、食堂のメニュー
今日微妙だよ！

私好きなんだけど！

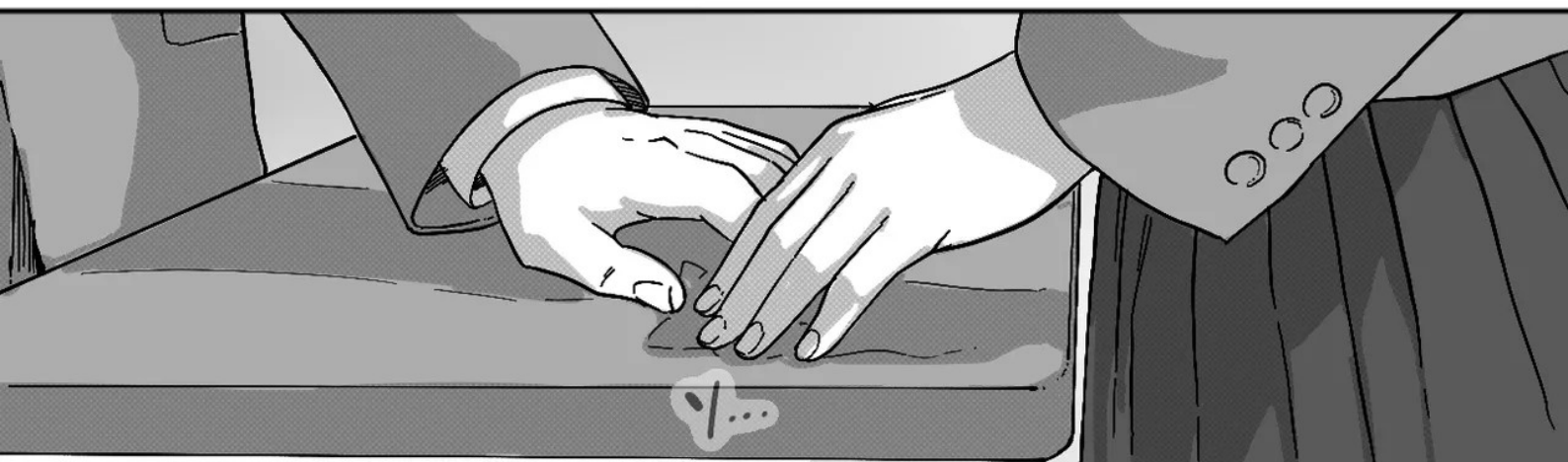
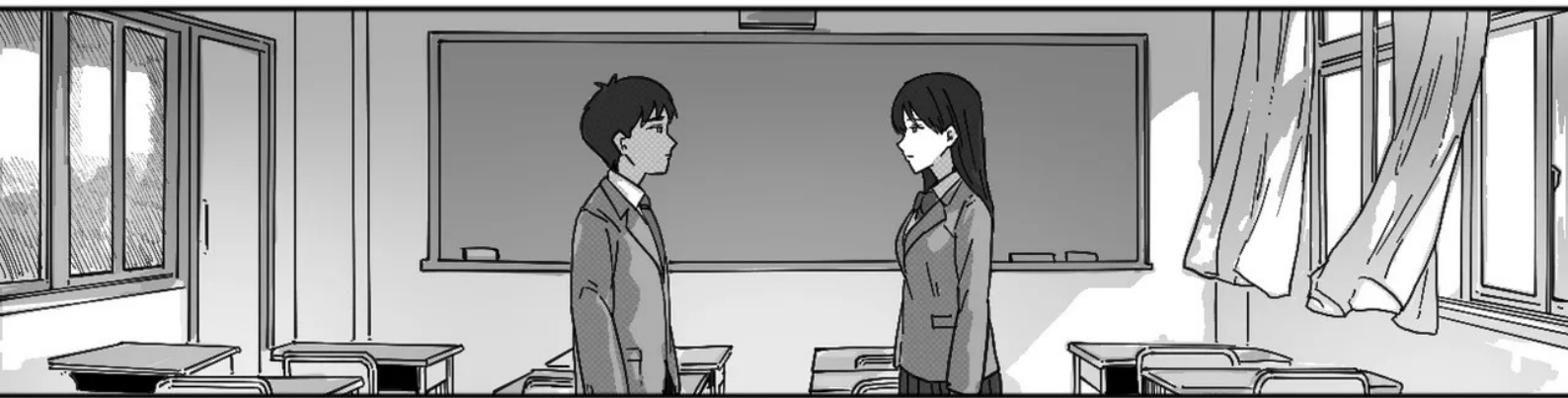


頭の中で
まだ熱を帯びていた



昨夜の記憶が
焼きついたまま…







その笑顔は、練習じゃ
見せたことのない——

本物だった



ふたりで……
ちやんと……



今度は“予習”
じゃなくて……



終わりではなく
始まりの予感——



さっきの「ふたりで
ちやんと」って…

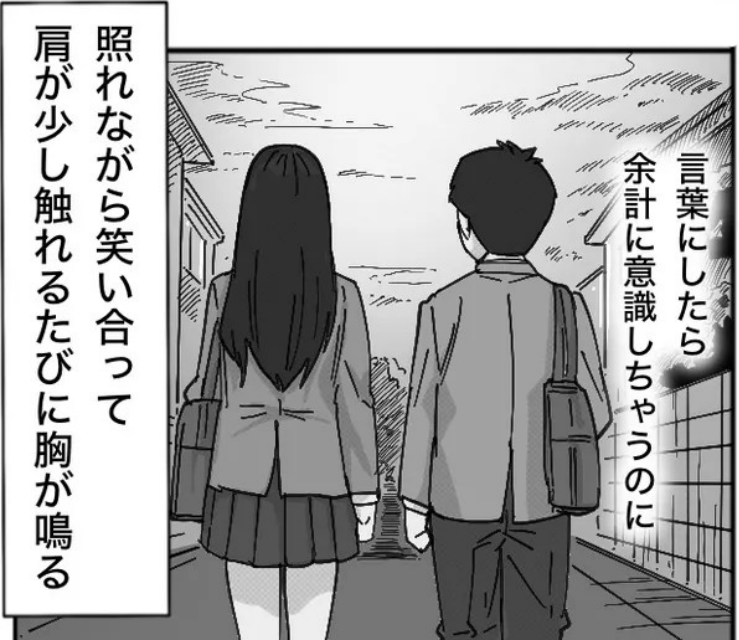
あれ、ちよつと
ドキツとするよ

私も、あとで
少し恥ずかしくなった




「予習」の次は
きつと

2人の答え合わせが
始まるのかもしれない



言葉にしたら
余計に意識しちゃうのに

照れながら笑い合って
肩が少し触れるたびに胸が鳴る



あの頃はただ一緒に
歩けるだけで嬉しかった

まなはいつも無表情だったけど
俺の手はしっかり握ってくれてた

「今日も隣にいてくれる」
それが、何よりの安心だった



まなを意識すると
股が勝手に反応してしまう

恥ずかしいのにそれを
見透かすようにまなは少し笑ってた

やめてくれよ
そんな顔……

びしょ濡れの制服越しに
まなの肌が透けて見えて

見ちゃいけない
でも見てしまう

まなは何も言わずただ前を見ていた
バレそうでドキドキした





あの日は…
一瞬何が起きたのか…
わからなかった

気づいたときには
まなが俺の前に立ってた

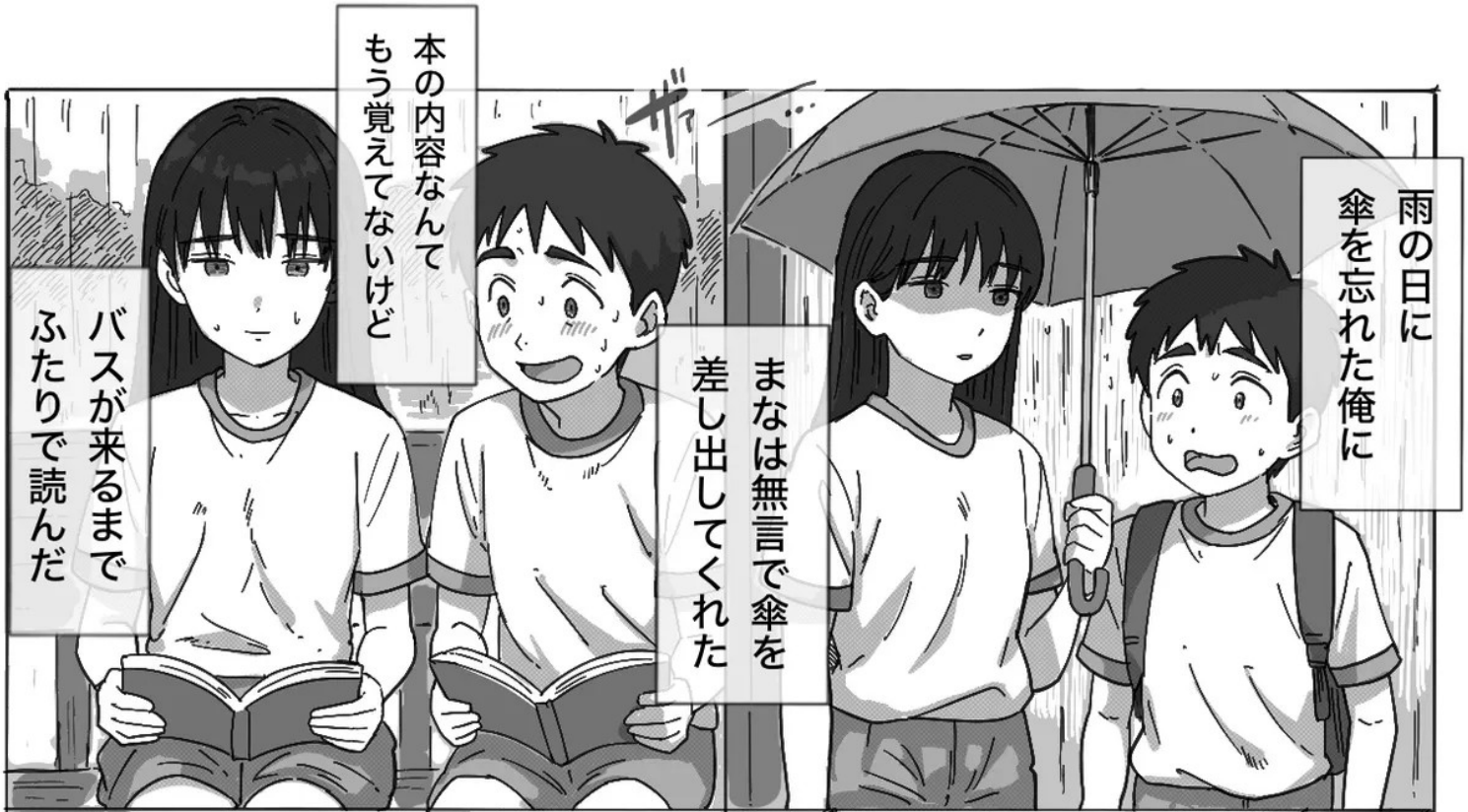
守られてたのは
俺の方だった


その事実が、妙に悔しくて
でもちよっとだけ…嬉しかった



どうしてあの時あんなに
自然と接することができたんだろう

今は俺が緊張してままと
まともに話せないと云うのに…





中学の頃みたいに
もう手は繋がなくなつた

何となくお互いが少しだけ
意識してるのかもしれない

昔よりも話すことは
減つたのになぜか
不思議と落ち着く

昔と変わらないはずの日常
だけど今はまなの…
顔が直視できなかった

昨日の初めてのエッチを
思い出すたびに
ちんぽが騒がしくなる

たぶん、まなも…
同じだったと思う

手を伸ばせば届く距離
でも、今日はなんだか遠かった

それでも—
まな、やっぱり君のことが—

放課後の静けさが染みついた更衣室
汗と柔軟剤の匂いが漂うなか

まなは静かに隅で隠れてた

あの夜、彼が…
眠ってしまった際に—

指が勝手に
シャッターを押していた

これ、バしたら…
でも…







ふたりの会話も
気配もすべてが遠くなる

駿のことしか
頭になかったか

カーテンの奥で
ひとり達した少女は――

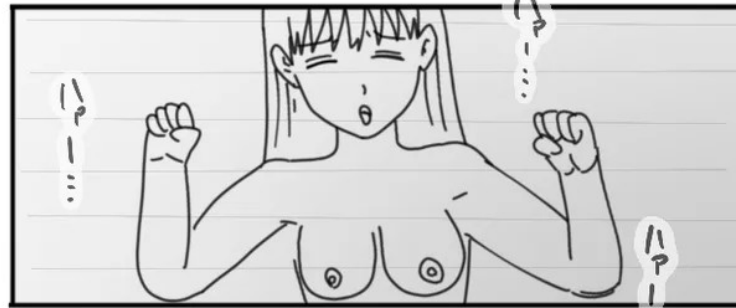
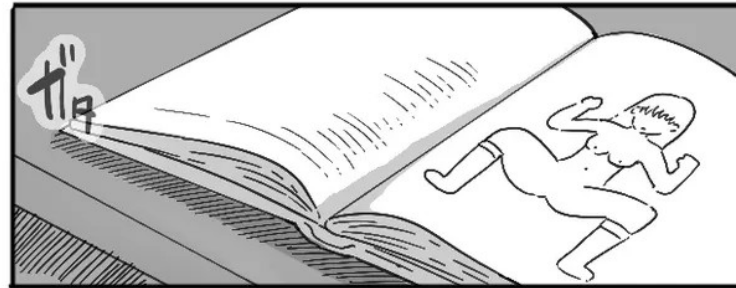
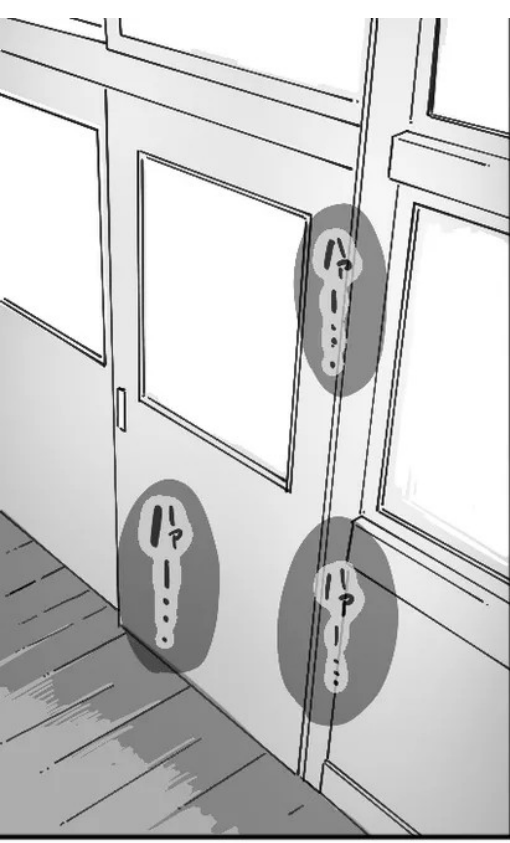
その罪悪感すらも
快感に溶かしていく

誰かいる？

なんか……
やっぱ出よっか

空いてるとこ使お







それだけでどうしようも
なくなってしまう

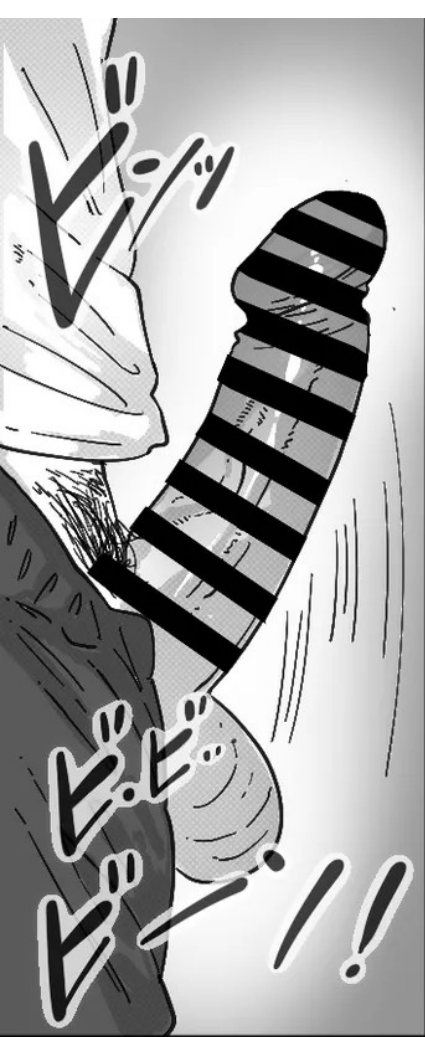
思い出すのは
まなの顔、声、感触…



心が前へ進んだ

















FIN



あとがき

この作品を最後まで読んでいただきありがとうございました。
本作は「無表情な幼馴染が“セックスの予習”を持ちかける」という
突飛な導入から始まりつつも、実際には「関係の輪郭が曖昧なまま、
心と身体の境界線が揺れていく青春的一幕」を描くことを意識しました。

抜き所をしっかりと描きつつも、ただのエロでは終わらない
「温度のあるエロ漫画」にできていたら嬉しいです。

それでは、またどこかで。